

令和元年度 第3回防府市中小企業振興会議 会議録

日時 令和2年2月21日（金）午前10時から

場所 市役所1号館3階 第1会議室

出席委員 13人

欠席委員 1人

事務局 10人

1 開会挨拶

【市長】

本日は、御多忙の中、防府市中小企業振興会議へ御出席いただき感謝申し上げます。

また、平素から本市の行政全般に渡る御尽力、御協力に対して感謝申し上げます。

10月の第2回目の会議では、本年度実施している中小企業振興施策について多くの御意見をいただき、皆様の御意見も参考にさせていただき、一昨日、新年度予算案を発表したところである。

昨今話題となっているふるさと納税だが、今年度から全国統一基準、返礼品割合が3割以内となったことに伴い、本市でも魅力ある返礼品等についてしっかり取り組み、本市の中小企業施策にも反映したいと考えているので御協力をお願いします。

後ほど、事務局から予算についての説明をするが、今後の中小企業施策に反映させるために忌憚のない御意見を賜るようお願いする。

○ 会議成立の報告

【事務局】

14名の委員中13名の出席であり防府市中小企業振興会議規則第3条第2項の規定に基づき、本会が成立していることの報告。

○ 会議の公開

【事務局】

防府市中小企業振興会議規則第3条第4項の規定により、本日の中小企業振興会議は公開とする旨の報告。

○ 令和2年度当初予算案の概要

【市長】

～ 令和2年度当初予算（案）の概要により説明 ～

2 令和2年度中小企業振興施策（案）について

【事務局】

～ 令和2年度中小企業振興施策（案）について概要説明

資料2・令和2年度防府市中小企業振興会議関係予算（案）の概要 ～

令和2年度の8つの目標ごとの拡充ポイントと概要について、目標ごとに説明し、目標ごとに委員の皆様の御意見を承りたい。

○ 目標（1）経営の革新、創業及び承継について

【A委員】

目標1の1番にも出ているが、防府市中小企業サポートセンター（以下、「コネクト22」と表記）について、昨年6月に開設し、この2月までの相談件数が740名、1日換算で約4.5名の相談者数となっている。

現在、センター長と創業担当者、情報発信者の3名で行っている。相談は主にセンター長と創業担当者が受けているので、1日4.5名というのは2人にとってはかなりハードな件数となっているが、しっかりとやっている。

センター長にはワンストップで相談を受けてもらい、センターの中でそのまま相談を継続するものや、会議所と連携して動いていくものがある。

創業については、金融機関と連携して創業資金を含めた形で連携して、事業計画なども作り、非常にいい連携が取れている。

とにかく、商店街にあると小売り、物販系の相談が多いと思われるが、意外と製造業、建設業の相談があり、製造業の場合には、今は生産性向上の相談事例があると聞いている。建設業に関しては、人手不足関係についての相談があり、商店街という場所についてはあまり関係がないと感じるところである。

情報発信については、今回の予算等にも計上していただいているが、9月に開設しているホームページの充実、どういう人が、どういう内容について閲覧しているかというものの解析を行い、ニーズを把握しセミナーとして提供するためのアクセス解析をしたいと考えている。

具体的には、9月にホームページを立ち上げた当初は、約2000件だったものが、先月は7000件の閲覧があった。それをさらに、その人がどこの部分をどのくらいの時間見ているかを解析し、そのニーズに合ったセミナーを開催するということ。

もうひとつ来年度特に力を入れて実施したいのが、動画。ホームページ内に動画を立ち上げたい。現在多い相談が補助金の申請だが、紙ベースで申請の仕方を指導すると、中小企業者は、そこで、これは無理だと判断してしまう場合が多いため、その申請の方法を動画で立ち上げたいと考えている。

それと、IT補助金が多く出ているが、IT補助金イコールホームページだと思われる場合が多い。もっと違うことで補助金が活用できる場合もあるので、それを動画で発信していきたい。その中にコネクト22の窓口のことも入れて、こういう時にはコネクト22へ相談に行けばよいということもアピールしていきたいと考えている。

そうということで、現状としてコネクト22は効率的に運営させていただいている。

【B委員】

I T系が分からない人がやはり多いので、こうすればよいというような提案があればいいのではないかな。

【会長】

今は、A I がパッケージ化されているので、色々な使い方がある。1社だけで難しければ集まって使うなど色々あるのではないかと考える。

○ 目標（2）創造的な事業活動について

【C委員】

2番の小規模事業者育成支援事業の予算額が半額になっているがどうということか。

【事務局】

商工会議所が行われる事業に対して一部補助するということだが、商工会議所が受け取る国の補助金もあることからそれを併せてということで、この度の市の予算は落としているという状況。

【D委員】

会議所にお伺いすることになると思うが、出展についてはただ単に出展するだけでは意味がないと思う。特に展示会については、バイヤーと話ができる場のセッティングが必要と考えるが、そのあたりは会議所として支援する予定があるのか。

【A委員】

出展については地域商社山口と協議させてもらっている。

バイヤーとの話は地域商社山口がプロなので連携しながらやっていきたい。

我々が目指すところは、地場の産品に価値を付けること。そこをしっかりとフォローアップして橋渡しをしていきたい。

いい商品があるので、それを都会に合わせたものへと、コネクト22とも連携し商品づくりをしていきたい。

【E委員】

地域商社山口は、山口県の商品を関東、関西圏を含めて物流をしていくということで立ち上げている会社。

足元ではいま山口県のお酒を酒造メーカーとジョイントしていろいろな商品を開発して、大阪、東京で販売している。お菓子等も含めて東京、大阪でも商談会を行っている。

一番問題になってくるのが東京のマーケットに対応できる生産量とか流通、そういったものの絶対量で負けてしまうことが課題の一つ。

そういったことに対応するために融資を受けてもらって工場を増設するとかラインの更改をするということを金融機関としてはサポートさせてもらっている。

今年の3月には農業法人を立ち上げて秋からわさびを作り始め、色々な商材を地域商社山口で販売する予定である。

山口、防府の企業と東京、大阪のバイヤーとのジョイントを引き続きやっていくことを進めていきたいと考えている。

【会長】

今の規模の話であるが、確かにマッチングするときには相手が大きな会社のため、そこに対して生産量がないところが行くと交渉力で仮に契約が取れても利益が出ない、向こうが価格交渉権を持ってしまうということがあるので、東京、大都市圏の小さな企業、防府の商品が相手のメインの商品になっていく、こういうマッチをすると、小規模で今の強みを生かしながら利益も得ていけるということもあるので、一方で大規模生産を促していくと同時に、会社にあったサポートができるということが重要ではないかと考える。

○ 目標（3）施設又は設備の導入並びに事業活動に有用な技術及び知識の向上

【F委員】

地元金融機関としても、人材、雇用ということで人の確保という問題がある、若手職員の定着率。離職もかなり高く、なかなか人が集まらないという問題を抱えている。

人材バンク的なものを県も作られているので、その辺で雇用の方もうまく確保できればと思っている。

【G委員】

防府に限らず人材不足ということがずっと言われ続けている状況。

ハローワークとしても、いかに求人を出している企業の求人を充足させていくかという非常に難しい問題を抱えている。

少しでも求人者のためになることをしていこうということで、各ハローワークでも色々な策を練っているところではある。

最近のハローワーク防府での動きでは、求職者が少ないわけではない、それ以上に求人多すぎることだが、求職されている人にいかに各企業に足を運んでもらうかということを考えている。

求職者の方もいきなりの面接となると敷居が高く腰を上げない方もおられるので、12月からは毎月、人手不足感が強い業種別、福祉、介護、運輸業、保安業の企業にハローワークに来ていただいて時間設定してその時間の中で各企業と自由に面談できるという取り組みをしている。

しかし、求人者としては人手がないので希望が多いが、一方、求職者の参加がどれだけいるかという問題もある。

だいたい1か月前には、来月はこの業種について実施すると決めて登録者にアナウンスするが、これまで3回実施したところ、企業側の希望は多い、スペースの関係で3社から5社しか参加できないが、求職している参加者が毎回10人もいかず、参加企業数と同じ4人や5人などとなっている。

しかし、企業側からすれば2人、3人とでも話ができたということで喜んでおられるという状況である。

今後はできるだけ参加者に多く集まっていただいて、参加企業にも時間取ってもらっているので、各企業が2人、3人と話せるように集客力を高めていきたいと考えている。

【会長】

職業訓練の質的なものよりは、まず量の確保という問題の方がより喫緊の課題ということか。

【F委員】

本店では17人、18人のメンバーがいる。これまでは正職員が主であったものが、今ではパート、嘱託の方の比率が高くなっている状況である。65歳までは同じような業務を行うということになっている。

【会長】

そうすると、もしかすると、職業能力の開発とか従来考えている何々業の〇〇技術とかではなく、別のところに問題があるのではないかということか。

【F委員】

我々はサービス業なので、機械に頼ることができない。経験則などが重要になるため、退職は体力的なものではなく年齢的なものになってくるので、少しでも長く働いていきたいところが実情。

【会長】

ひとつは、労働市場に出ていない人財に労働市場にでてきていただくための教育施策、高齢の方がサービス業でもっと長く働いていただくためのやり方、難しいかもしれないがITの教育サポートが重要になってくるかもしれないということも問題になってくると思う。

【H委員】

職業訓練センターの指定管理者が5年間でビジネススクールオカモトとなっている。訓練センターでも時代の流れによってその中身も変わっていくと思うが、この業

者の選定についての競争相手はいたのか。

【事務局】

この施設は5年間の指定管理としており、令和元年度は2回目の指定管理となっている。

最初が平成26年から平成30年までの5年間で今回が令和元年から5年ということだが、その前年に指定管理者の選定会議を行っている。

一回目の選定時には3社の応募があり、その中からビジネススクールオカモトを選定している。今回の選定にはビジネススクールオカモトしか応募がなかったが、もちろん審査は行って、問題なく継続できることが確認できたため、継続してほしいという状況。

【H委員】

経緯は了解した。次に5年が終わった時点ではまた審査を行うと、次の5年間の応募者が、このビジネススクールオカモト1社の場合には、他に方法がないということか。

【事務局】

より多くの応募者があれば、よりふさわしい選定者が選ばれるということはあるため、前回も市広報やホームページなどで十分広報したつもりではあるが、次回もさらに周知に努めたい。

【H委員】

おそらく引き受け手がないのは、あまり利益が上がらないということではないかと思うが、非常に重要な施設だと思うので次の選定の時には受けてもらえるような予算になる必要があることも検討していただきたい。

【会長】

限られた地域の中で受け手がどれだけあるかどうかは儲かる、儲からないということもあるが、市場規模ということもあり、基本的には経済学でいうと市場の中でプレイヤーが少ないということは市場の機能が失敗してしまう「市場の失敗」という、そういうことが起こりやすい状況である。

こうなってしまった時には、今後、こういうものをお願いしたいという場合には、行政との連携を強めて対処していくということも重要であるため、そういうことも考慮する必要がある。

- 目標（4）情報発信の促進及び販路の拡大
（事業が全て再掲のため省略）

○ 目標（５）交流及び連携の推進並びに事業の共同化のための組織整備

【Ｄ委員】

中小企業者創出連携事業について、中央会は組合設立や企業間連携を普段から行っているのですが、連携できる部分があれば声をかけていただき一緒に行いたい。

【Ｉ委員】

この事業は多分、コーディネーターが非常に重要になると思うが、コーディネーターはどういった方が携われるのか。

【Ａ委員】

来年の事業なのでこれから事業の形を考えていくことになるが、言われるようにコーディネーターがうまくコーディネートしていく、お互いの想いを伝えるということが非常に重要になってくると思うため、そこに関しては防府市、県、大学や関係機関に相談しながら、キーマンになると思うので慎重にやっていきたいと考えている。

先ほど中央会からも話があったが、これからの事業は色々な掛け算だと思うので、製造業と小売業を掛け算していくなど色々なことをこの場で設定していきたい。

また、先ほど市長からの話にもあったが、県の農業試験場が来られるので、農業との商品化、いわゆる六次産業化というところもこういう交流の中に生まれてくると、防府らしさということも期待していけるのではないかとということで、力を入れていきたい。

【Ｉ委員】

宣伝になるが、県立大学が今年度から引き受けている「大学リーグ」というものがある、「大学リーグ」のコーディネーターが本来は地域の色々な企業のニーズ、シーズを大学と連携してということになっているが、大学だけで色々な支援はできないので、企業連携も同時にそのコーディネーターが活発にやっている。

来年度もこの「大学リーグ」、コーディネーターの人は変わるかもしれないが、大学との連携だけではなく企業と企業の連携に携わるといの方針になると思われるので、こういったものも使っていただけるといいと思うので検討いただきたい。

【Ｊ委員】

異業種交流会は非常に重要なこと。中小企業、若者たちが積極的に交流できる場所を創出してもらいたい。

異業種交流ができていない人も多いと思われるのでそういう人たちも交流してコラボな商品などができれば防府もいろんな意味で発展できると思う。

情報の告知も必要なので、今の若い人たちからすると、やはりスマホなどでチェックするのでＩＴなどでも進めてもらいたい。

この異業種交流によって交流を図って元気になっていただきたいので是非、積極的

にやって欲しい。

【会長】

いま、企業間の話が出ていたが、大手企業との関係、例えば自動車会社だと日本はかなり進んでいるが、事前に部品を組み立てメーカーに提供していくという場合、部品をどれだけ組み合わせたものを提供できるのかということが、相手が車一台製造する場合に組み立て部品が提供されればされるほど製造時間が短くなる。

そうすることが、地域間の競争力になってくる。そうなると地元の中小企業がどのようにして連携して複合部品を作っていけばいいのかということや、データを共有することによって大手企業から要望があった時に1社、1社が応えるのではなく、まとめてすぐに対応できるということが防府市ではできるとなると、圧倒的に他地域よりも防府でやったほうがいと大手企業としては判断する。

そういう地域の競争力を高めていくという観点から、テーマを絞って異業種交流会を行っていくことも重要ではないかと思うので、こういうことも検討し、どういう異業種交流会を行えば我々の強みになっていくのか経済的発展につながるのかということなどを判断しながら進めていただきたい。

○ 目標（6）産業集積の活性化

【K委員】

駅周辺まちづくり協議会の発足が新規事業としてあるが、やはり市民が危惧しているのはアーケードの老朽化によりこれからどうしていくかということ、まちとしても、まちづくりの観点からもこれからどうするのかということをしっかり考えていただきたい。

【C委員】

どうしても根本に戻るが防府市がどういうまちになっていくかというところが無いと、個別で駅の周辺とか商店街、それらは当然やらなければいけないが、正直、具体的に見えないところがある。

どうしても同じことを言ってしまうが、そこが来年度の新たな出発になるのかわからないが、防府自体がこういう風なまちになりますよというひとつの統一感、全市民に行き渡るような認識でないと、また中途半端なことを小さな団体が行うというようなことが繰り返されているように思えて仕方がない。都市間競争もいいが、都市間競争をやっている場合ではない危機感が生じている。

抽象的になるが、市民が防府をこういうまちにするために駅の周辺を整備するとか、駅の北からこういう風にまちづくりするなど、目標があって具体的に下がっていくのであればよいが、大元が見えない部分があるので、そこが個人的には中途半端になって、どこに一番力が入っている予算なのかが見えない。

【市長】

いま商工会議所の方でもまちづくりのことを検討されているが、これまでは具体的な計画が大きなゴールになかなかたどり着けないでいる。

私が考えているのは、全体を考えるととなると皆さんの意見は色々あるため、市が具体的にここはこうするという起爆剤を与えて、市民の皆さんに全体を考えてもらいたいということ。

そうした中で、庁舎をここに持ってくるということを決めて初めて次の段階へ入ったと思っている。

まちづくりというものは民間が主体になるものだと思っており、行政だけでなく市民の皆さんが盛り上がらないといけない。そのような中で行政としてできるものは起爆剤の役割として行政で行う。

駅周辺のことやルルサスやアスピラートの周辺のことなどを市が行い、商工会議所の中では3つの部会を作ってしっかり取り組んでおられるので、それらと一緒に頑張って大きいことを行うということ。

そういう方向で、令和2年度中に考え来年の今頃には総合計画の中で大きな方向性が位置付けられるようにしていきたいと考えているので、よろしくお願いします。

【会長】

進め方としては、起爆剤にということだが、駅周辺をどのようにしていくのかということを中心に、魅力ある駅中心部とはどのようなものかと考えて実践していって、それができたら周りをどうしていくのかということも考えていく、逐次的に進めていくということか。

【市長】

行政の方である程度の方向性を示し、民間の方でどうしていくかという意見を聞こうと考えている。

【C委員】

会長の意見として、進め方としてはどういう状況が多いのか。

【会長】

私が経験した、こういう基礎自治体レベルのところで行くと産業構造をどうしていくのかということでは行政ができるが、まち全体をどうしていくのかということに関して、経済的なものではなく社会的にどういうものを作っていくのかということまでを含んだことになった場合、やはり地域住民の考えが非常に大きなものになるため、現実的には、議員の方々が意見を出されて、そして議会で議論されるプロセスと、それを受けながらサポートしていく形でやっていくものではないかと考える。

ただし、先ほど言ったように、産業構造であるとかメインのインフラについては、これをどうしていくのかについては行政の役割になってくると考えるので、そういう

役割分担とコラボの在り方を考える必要がある。

【C委員】

そういう役割分担などはバランスよく進んでいるのか、いないのか。

【会長】

私がそれを評価する立場ではないが、市長の考えでは、そういうことを考えて進めていくということではないか。

○ 目標（7）従業員の雇用環境の整備、雇用の維持及び創出並びに人材の育成

【L委員】

女性に向けた創業支援やキャリア教育などについては県でも行われており、割と充実していると思う。

【I委員】

1 点目、先ほどから女性とシニアに関するものはたくさん出ているが、外国人に対するものが出てきていない。外国人に対する、人財活躍応援や企業の魅力発信事業などについてはどのように考えているのか。

2 点目、大学の生徒に、こういうフェアに行つての感想を聞くと、意見が特になく自分のこととしてフェアでの情報発信の内容等を捉えていない様子である。

例えば、サイトの運営や情報誌などを作ることがあったが、そういうところに地元の高校生や大学生を巻き込んで、自分たちで地域の中小企業のことを勉強させて発信させるという仕組みができないのかということについて教えていただきたい。

【事務局】

外国人については、もうすぐ完成するが、令和元年度の事業の中で外国人向けのマップを作る事業を実施している。それと併せて、庁内で色々な分野があるので、職員による出前講座というものを実施している。外国人については、こういうことでの支援を考えている。

情報発信については、いまのハウフル事業は会議所へ委託して実施しているため、今言われたような地元の学生と行うということについては協議してやっていきたい。

なお、先ほども説明したが、学校に出向いてその卒業生を呼んで生徒の前でお話をさせていただくこともやっており、生徒からのアンケートでは、参考になったという話も聞いているところである。

また、地元に残らず県外に出たいという人もいる中で、そういう人たちにも地元に残っていただくという方向で効果が出ていることもある。

この事業は好評のため引き続きやっていきたいと考えている。

【I 委員】

卒業生やそこで働いている人の話を聞くことによって定着率は高くなるので今後も継続していただきたい。

また、それと一緒に話を聞いた生徒たちが、その企業について考えるような時間を作れば、さらに定着率が上がることや就職率が上がるという傾向があるため、ぜひ継続していただきたい。

【会長】

今までのことで質問だが、外国人の施策についてはこの予算の中で行われるのか、別の事業で行われるということか。

【事務局】

今年度（令和元年度）事業はマップを作るということで、予算が伴う事業であったが、出前講座は職員が実施するので予算を伴っていない企業立地の関係で事業を行うということ。

【会長】

大前委員の話にもあったが、日本のキャリア教育のインターンシップなどは欧米に比べると期間が非常に短い。欧米だと何ヶ月も務めてお互いが色々なことを知っていくということがあるが、日本は期間が短いので大前委員が言われたようなことをやることによってより深い理解が得られる、そしてそれが定着率につながっていく。

欧米のインターンシップを行った企業では定着率は良くなるし人材の成長のレベルも高くなるというデータも出ている。それに代わるものとして、そういうことをやっていくということは重要なこと。

企業の魅力発信事業では、パンフレットもあるが、やはり、若者を対象とするのであれば、難しいテーマにはなるが、どうすれば若者に受け入れられるのかということも検討が必要である。

○ 目標（8）資金調達の円滑化

【会長】

事業資金の調達の円滑化ということで、最初に話したように、（新型コロナウイルスの関係で）景気の動向によって中小企業は非常に苦しくなってくる、その時にこの資金の使い方がどのくらい柔軟なものなのか。

当初には新型コロナウイルスのことなどは全くなかったと思われ、その頃には人手不足などが問題にされていたと思われる。その辺りの柔軟性について確認したい。

【事務局】

今の新型コロナウイルスに関しては、経済産業省のホームページにも出ているが、県や

防府でもそれに対応する資金があるので、そういう指定を受ければ、その制度融資が使える仕組みになっているため対応できると考えている。

融資自体には審査会等があるので、申込等はコネクト22などに相談しながら実施していくことになる。

【市長】

本市ではコロナウイルスの対策本部を県内で最初に立ち上げた。

中小企業への影響についても注視するということにしており、先日の産業戦略本部でも企業の皆さんから意見を聞いたところである。

昨日、厚生労働大臣からのイベントに関する発表があり、大きな影響があるかもしれないため対策本部で検討して柔軟に対応していく。

予算についても補正や追加があるかもしれないが、資金面は大切なのですぐに対応できるように準備しておきたい。

3 その他

【事務局】

～ 中小企業フォーラムについて ～（参考資料）

3月16日 13時半～15時半 アスピラートで開催する。

演題「プレスリリースの広報術 お金をかけずに宣伝・PRする方法」ということで企画しているが、コロナウイルスの関係があるため、開催については流動的になっている。

【事務局】

～ 企業立地について ～

現状説明（防府テクノタウン、防府第二テクノタウン）

防府市工場等設置奨励条例の改正について

【会長】

新しい企業が来られたということだが、今後來られた時に、こういうハード面での土地であるとか物流や道路とか、こういうことも当然であるが、ソフト面でも関連する地域企業のサポートであったり、人材の供給ということも経営としては非常に重要なテーマになってくるので、この辺のところで先ほど言ったように、大企業が入ってきても、ここはダメだと他のところへ行かれたり、撤退されることがあると大変なことになるので、地域としての競争力を付けていかないといけない。

そのために我々に何ができるのかということで、箱物や、道路は道路、土地は土地、人材育成は人材育成、中小企業は中小企業と分けるのではなく、これを機会にまとまってより良いサービスが提供できるようにしていただきたい。

【事務局】

～ ふるさと納税制度について ～

令和元年6月から地方税法の一部改正する法律が施行されたことにより、ふるさと寄附金に対する返礼割合が全国統一されたため、本市でも見直しを行った。

「一般寄附」については従来通りだが、新たに特定の事業に対して寄附をいただく「指定寄附」については5つの事業を選定している。返礼品についても見直ししていくとともに、ポータルサイトとして、知名度の高い「楽天」を追加する。

県人会、同窓会、自衛隊などへのPRを積極的に実施し、制度の周知、魅力の可視化としてのパンフレット作成。

【市長】

～ 閉会の挨拶 ～

本日は委員の皆様には色々な御意見をいただきまして感謝申し上げます。

来年は中小企業振興計画もあるが、市の次の総合計画を作る年にもなるため、この会議でも皆様の御意見をしっかりいただきながら5年先を見通した具体的な計画となるようにしたいと考えているので、よろしくお願いします。

【事務局】

以上で、令和元年度第3回中小企業振興会議を終了する。

会議終了 午前11時50分